



市政同志会 帰山 明朗 議員

日本語指導が必要な児童生徒への支援について

問 日本語指導が必要な児童・生徒にどのような指導を行っているのか。

答 市内小学校で日本語指導を受けているのは6名。うち3名は週3時間の取り出しでの個別指導(別室で教員・支援員と1対1での学習を進めるもの)、それから各クラスの授業に入ってから各クラスの授業を受ける際、教員や支援員がサポート役として入り担任とともに支援するものを行っている。残り3名は各クラスで授業に入ってから支援を実施。なお、これら取り出し指導や各クラスでの支援については、現在、県費の日本語指導教員1名と市単独の支援員1名の2名体制で指導に当たっている。

問 外国人労働者の受け入れが増加するに伴い日本語指導が必要な児童・生徒の増加も考えられるが今後の支援拡充について

答 教育長 日本語教育のできる教員の配置、日本語と児童らの母国語の両方の読み書きができる支援員の配置が重要。今年度途中から国や県の支援制度も創設されてきた。来年度の状況など踏まえつつ支援拡充を進めたい。また、これは市教委だけで対応で

きることはない。県教委や国際交流協会など関係団体との連携や情報共有を深めていく。

性的指向や性自認について困難を抱えている人たち(LGBTQ)について

問 市印鑑条例の一部改正に伴う配慮について

答 印鑑登録証明書に旧姓の記載を可能とするとともに印鑑登録証明書と関係申請書の性別欄を削除したい。

問 その他の市の扱う各種申請書等の性別欄の見直しについて

答 申請の性別欄記載時、身体の性と心の性が一致しないための抵抗感や、戸籍上の性と見かけの性が異なることで手続の際に確認されるなどで精神的苦痛を感じる方がおられる。今回、印鑑登録証明書等の性別欄削除を機に性的マイノリティの人権擁護の観点から、各種申請書や証明書等を全庁的に調査し、性別記載欄の必要性を確認し、不都合がなければ削除する、または表記方法を工夫するなどの見直しを実施したい。



市民創世会 山本 敏雄 議員

職員の労働環境について

今、働き方改革が議論されている。正規雇用労働者と非正規雇用労働者の処遇差是正、長時間労働の是正、多様な働き方の実現という3本の柱が課題として挙げられている。私は、正規職員が少なく少数精鋭という業務体制を堅持している本市の職員たちが、意欲を持って働ける職場環境づくりを働き方改革から一貫して再考すべきと考えている。職責に意欲を持てる職員の育成が行政における市民サービスの基本と考え、職員たちの心と身体的健康を守り、労働環境の良さを追求。市民ニーズの多様な時代の中、「市民サービスの安定化」という視点で以下質問した。

問 長時間労働について取組は。

答 毎週水曜日をノー残業デーとして設定。超過勤務80時間を超えた職員に産業医面談を受診するよう指導、またメンタルヘルス相談日を設定。疲労蓄積度の自己診断や精神科医との面談を実施している。

問 土、日曜日などに実施されるイベントに従事する職員に過度の負担はないか。

答 職員が週休日のイベントに従事する必要性が生じた場合には、勤務日を週休日に

振替ができるとしている。また、年度内の振替ができるよう弾力的に運用している。市の事業の方向性を確認する事務事業評価を実施するなかで、事業の統廃合や事務内容の経費見直しをし、職員の負担軽減に努めている。

問 職員の働き方に対する意識の向上について

答 課内でお互いに意見を言い合える風通しの良い職場環境をめざし、昨年8月から毎朝各課において職員執務七訓の唱和と朝礼、打ち合わせを行っている。評価者である課長が業務上の指導、助言を行うだけでなく、職員一人一人の能力開発やスキルアップを促し、職員のモチベーションを高め、組織全体の公務能率の向上に努めている。

